

帰国・外国人児童のための JSL 国語教科書語彙シラバスの研究 ーグローバル社会における共生型小学校国語科教育をめざしてー

田中祐輔（東洋大学 国際教育センター 准教授）

1. 帰国児童・外国人児童の増加と対応の必要性

グローバル化の進展に伴い、我が国の在留外国人数は263万人を超え、外国人児童は増加・多様化し、日本語指導が必要な日本国籍児童も10年間で倍以上に増えている。我が国で学ぶ児童が等しく学習機会を得るためには、日本語支援拡充が不可欠であると指摘されている。

2. 極めて重要な“全ての国語検定教科書の掲載語調査”

こうした状況下において我が国の言葉を学ぶ国語科は極めて重要と言えるが、実際には9教科の中でも特に困難が伴う教科とされ、帰国・外国人児童の学習語彙不足が教室参加に支障を来しているという。とりわけ、授業の根幹を成す国語教科書が母語話者を前提としているため、理解できない帰国・外国人児童にはJSL (Japanese as a Second Language) 教育として取り出し授業を行わざるを得ない。また、仮に取り出したとしても、第一学年から第六学年までの国語教科書掲載語が把握されていないため、実際の国語科の教育内容と連動した日本語支援は困難であり、帰国外国人児童をいつまでも正規の授業に戻すことができない問題が指摘されている。国語教科書に掲載された語彙は、言い換えれば国語の習得に必須となる語彙でもあり、全ての国語検定教科書の掲載語を把握するための調査と考察が喫緊の課題となっていると言えるのである。

3. 『JSL 国語教科書語彙シラバス』の解明を通じた共生型小学校国語科教育への貢献

そこで、本研究ではグローバル化に伴う我が国の教育的課題解決のために、小学校国語検定教科書（光村図書・三省堂・東京書籍・学校図書・教育出版：計37冊）の掲載語を調査し、帰国・外国人児童の学びに必要とされる『JSL 国語教科書語彙シラバス』を明らかにする計画を立案した。さらに、得られた知見やデータベースを、法令と研究倫理を遵守する形で教師や教材作成者等が自由に活用できる教育資源として公開することを構想した。これらは、我が国で学ぶ全ての児童が等しく学習機会を得られる共生型小学校国語科教育のための日本語支援拡充に寄与することを目的として行われたものである。

4. 研究成果

2018年4月から2019年3月までの間に予定されていた全ての調査を終えることができ、275,541語に及ぶ第1学年から第4学年までの小学校国語検定教科書の語彙データの構築とアノテーション（学年、出現ページ、単元名、作品のタイトル、原作者、本文中の表記、原型、ルビ、意味、出現箇所、品詞に関する情報を付与）、分析、考察が完了した。また、Webサイト『COSMOS』を立ち上げ、得られたデータ、および分析結果をJSL児童への教育従事者向けに教育資源として公開した。本サイトでは、国語教科書のことばの世界がいかなる様相であるのか、そして、どのような点に留意して指導すべきであるのかについても情報が掲載されている。さらに、本研究で得られた学術的知見については、論文としてとりまとめ学会誌に投稿した。

5. 今後の展望

今後、新たに第五・六学年の語彙データ収集とアノテーションを行うとともに、Webサイト『COSMOS』をプラットフォームとした教材作成やアプリケーション開発も進め、学習と教育の両側面からプロジェクトを展開してゆくことを計画している。

